

3 乍恐御訴訟申上候御事（間之原新開差留の儀につき）

寛文三年五月二十五日

【解説文】

乍恐御訴訟申上候御事

一 両町田村之儀ハ先年一村ニ而御座候処ニ北条奥州様御

領地之御時本町田村之儀ハ人居多ク候得共谷間入郷之事ニ

「間之原江罷出新町ヲ取立御役相勤候得由被仰付候ニ

付而一村ヲ二ツ二分八十年已前ニ原町田村取立申候其証拠ニハ

于今本町田原町田と申来候其上一月ニ六市立申候市を

二ツ二分一村ニ三市宛于今立来申候御事

一 両村間之原之儀ハ前々より入合草かり場ニ而御座候間已前

御領所之御時并ニ駿河 大納言様御領地当 御地頭様御持ニ

罷成候ても本町田古来之庄屋玄番存生之内ハ互ニ

致吟味彼野ニ新開不仕候処ニ玄番相果申候已後近年

新開或ハ野中ニうへ松うへかや新林大分ニ仕間之原馬

草取場一円無之様ニ我^②まゝ仕候儀何共迷惑ニ奉存

御事

一 本町田庄屋衆方江断仕候者間之原之儀ハ前々入合草

かり場ニ御座候処ニ何とて新開新林被致候哉百姓中江御相談

被成前々之通芝野ニ被成互ニ云分無之様ニ被遊可然と相

断申候へハ尤之由被申其後使ニ而返事被申候者内証

相談ニ仕度候得共百姓共先方之古畑荒レ地ヲ開申候^③

荒シ申事成難由申候間不及是非ニと返事被申候御事

一 重而此方より断申候者百姓衆先方之古畑今更開申候間

荒事成間敷由被仰越候乍去大久保石見様御繩打之

前後六七十年已来間之原ニ畑耆枚も有之事ハ老人共も

覺不申候間能々御分別被成百姓衆江御異見被遊前

のことく芝野ニ被成可然候若御合点無之候ハ、原町田より

訴申越 御地頭様江御窺被成内証相談ニ被成可給候

加様申儀ハ縦御領分ハ相替り候へても上々御一門様之御事ニ

御座候間六ヶ敷ニ仕候事迷惑ニ奉存故如此申と断候へハ

次日返事被申候様ハ百姓衆ニ為申聞候へハ 御地頭様江此

方より窺申事罷成間敷由庄屋衆方より返事被致

候故不及是非ニ乍恐御訴訟申上候御事

一 本町田村之儀ハ方々草かり場広ク御座候へハ事かけ

不申候故人痛も不存加様成我かまゝ仕事ニ御座候
原町田之義ハ此野ニ而馬草かり不申候へハ役馬もかつへ
作式之さわりニも罷成候へハ何共迷惑ニ奉存候先年
新町江罷出候時前々持来候田畑山林本町田ニすて置
野中江罷出候へハ原町田村之者ニ候て開山林ヲも可仕処ニ
馬草取場間之原計ニ而御座候間吟味いたし新開
少も不仕候処ニ剩本町田より間之原入合之場ニ新開
新林或ハうへ松うへかや大分ニ仕草かり場一円無之
様ニ我かまゝ仕候事何方ニも古今承及たる儀も無御座
候御事

右之条々御穿鑿之上前々之通被仰付被下候ハ、

有難可奉存候以上

原町田村

寛文三年卯ノ五月廿五日

惣百姓[㊦]

八左右衛門[㊦]

久留六郎右衛門様

七郎兵衛[㊦]

御内御家老中様

平右衛門[㊦]